

Title	硬玉製大勾玉
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.2 (1926. 5)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	口繪
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260500--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

硬玉製大勾玉

(諸陵寮藏)

明治四十五年の六月十六日から十八日に亘つて、坪井正五郎博士、柴田常惠氏、大道弘雄氏等によつて、大阪府泉北郡四百舌鳥村大字赤畑字塚廻りの一圓墳が發掘された。その場所が仁德天皇の大仙陵に近接し、宛もその陪冢であるごとく見えること、剝拔形木棺及び其他の珍物を發見したと、特に寫眞に見られる廻りの大勾玉の發見があつたことの爲めに、この發掘は諸方から注目されたことであつた。そしてこの勾玉は當時「天下一の大曲玉」と謳はれたのである。

長さは二寸。硬玉製(翡翠)である。大さは、かの奈良縣北葛城郡馬見村大字三吉字齋音寺巢山古墳發見の勾玉には遠く及ばないけれども、硬玉製のものとしては、最大であるばかりでなく、他と全く懸絶してゐる。出來も亦極めて良い。

尙、悉しい事は考古學雜誌二ノ十三、三ノ一所載大道弘雄氏の「大仙陵畔の大發見」と云ふ報告文に就いて見ていたゞきたい。

(和田軍一)

